

令和元年度第1回日田市総合教育会議会議録

開催年月日	令和2年2月21日（金）																
開催日時	午前10時00分																
開催場所	日田市役所4階 庁議室																
出席委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">日田市長</td> <td style="width: 33%;">原田 啓介</td> <td style="width: 33%;">教育長</td> <td style="width: 33%;">三笥 眞治郎</td> </tr> <tr> <td>職務代理者</td> <td>諫本 憲司</td> <td>委員</td> <td>永山 眞江</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>岡部 博昭</td> <td>委員</td> <td>木下 靖郎</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>奥平 和子</td> <td>委員</td> <td>古田 嘉寿美</td> </tr> </table>	日田市長	原田 啓介	教育長	三笥 眞治郎	職務代理者	諫本 憲司	委員	永山 眞江	委員	岡部 博昭	委員	木下 靖郎	委員	奥平 和子	委員	古田 嘉寿美
日田市長	原田 啓介	教育長	三笥 眞治郎														
職務代理者	諫本 憲司	委員	永山 眞江														
委員	岡部 博昭	委員	木下 靖郎														
委員	奥平 和子	委員	古田 嘉寿美														
事務局職員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">企画振興部長</td> <td style="width: 50%;">教育次長</td> </tr> <tr> <td>地方創生推進課長</td> <td>教育総務課長</td> </tr> <tr> <td>地方創生推進課主幹（総括）</td> <td>学校教育課長</td> </tr> <tr> <td>こども未来課長</td> <td>教育総務課主幹（総括）</td> </tr> <tr> <td>こども未来課主幹（総括）</td> <td>社会教育課長</td> </tr> <tr> <td>こども未来課主査</td> <td>社会教育課主幹（総括）</td> </tr> </table>	企画振興部長	教育次長	地方創生推進課長	教育総務課長	地方創生推進課主幹（総括）	学校教育課長	こども未来課長	教育総務課主幹（総括）	こども未来課主幹（総括）	社会教育課長	こども未来課主査	社会教育課主幹（総括）				
企画振興部長	教育次長																
地方創生推進課長	教育総務課長																
地方創生推進課主幹（総括）	学校教育課長																
こども未来課長	教育総務課主幹（総括）																
こども未来課主幹（総括）	社会教育課長																
こども未来課主査	社会教育課主幹（総括）																
議題	<ol style="list-style-type: none"> (1) 第2期日田市子ども・子育て支援事業計画について (2) ESD教育について (3) その他 																

事務局	<p>ただいまから令和元年度第1回日田市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>開会に当たりまして、原田市長から御挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>年度末になりまして、新年度に向けた新たな施政方針等の作業を進めているところでございますが、今年も教育・文化に関しましては、「学ぶ楽しさをふやす、学ぶ機会に満ちる、ひた」ということをテーマに、来年度に向けた準備を進めております。</p> <p>今日の次第にもございますように、今年の大きな課題として掲げておりますESD教育を実践に移していく、それから、コミュニティ・スクールが全校で始まり、新しい教育の形として進んでいく年度になろうと考えております。</p> <p>まだこれから試験的に始まっていくというような状況ではございますけれども、これをうまくリンクさせて、日田市の教育の大きな指針として、今後、続けていくことができればと考えております。</p> <p>とりわけ、教育委員の皆さま方には、今後の日田市の教育行政に対しまして御意見等を賜りながら、共に考えていただければと思っております。本日はよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>続きまして、三笥教育長から御挨拶をお願いいたします。</p>
教育長	<p>教育委員会を代表しまして一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>教育委員会部局におきましては、日田市教育大綱の「未来を切り拓き、ふるさとを愛するひとづくり」の基本理念のもとに、各種施策・事業を推進しているところでございます。これまで、この会議で議題としていただきましたコミュニティ・スクールの推進、あるいはキャリア教育につきましては、市長の御理解もいただきながら順調に事業を推進していくことができていると認識しているところでございます。</p> <p>本日テーマに掲げております、子ども・子育て支援、それから持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けたESD教育、これは、将来の日田市を担う子どもたちの望ましい成長のために、また、持続可能な日田市の発展のために重要、かつ、喫緊な課題であると認識しているところでございます。</p> <p>本日は限られた時間でございますけれども、私ども教育委員会と市長との意見交換を通しまして、今後の子育て支援、ESD教育の方向性が探れればと考えているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>それでは、協議事項に入らせていただきます。市長の進行で進めさせていただきます。</p>
市長	<p>議題の第1「第2期日田市子ども・子育て支援事業計画」でございます。この件につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
子ども未来課	<p>【「第2期日田市子ども・子育て支援事業計画」について説明】</p>
市長	<p>この議題につきまして、ご意見ををお願いします。</p>
永山委員	<p>質問を含めて3点をお願いします。</p> <p>1点目が、4ページの4番、子育て短期支援事業の中で、「児童養護施設等において子どもの一時的な預かり」というのがありますけれど、日田には児童養護施設がないと思うんですが、この時の対応をどの程度確保できているのかを教えてくださいたいです。</p> <p>2点目は、1ページの基本的な目標の中で、経済的な支援の推進というのは、やはり一番保護者が求めている部分だと思うんですが、私も子育てはお金がかかるなど本当に実感する場面が多いです。政府が保育料の無償化を打ち出したときに、とても喜んだ声をたくさん聞いたんですが、ふたを開けてみたら、やはり認定区分によっては必ずしも無償になっていないという現状がありました。そこを日田市が少しでも子育て中の保護者の方に、市独自の補助ですとか、何かそういう支えるような制度ができないのかなというのが2点目です。</p> <p>3点目、私が一番気になっているのが、基本的な目標の3つ目のところにあります、「切れ目のない支援」という言葉が何度も出てきています。これは、多分、妊娠・出産時から就学児童生徒、中学生がぎりぎり対象になっているのかどうかという感じに見えたのですが、子どもたちの抱えている問題は、今ものすごく複合的にいろんな要素が絡み合っていて、貧困だったり、病気だったり、それから周りに頼れる人がいないとか、そういう家庭、家族のあり方とかすごくいろんな面があって、学校に所属しなくなっただけからその問題は続いているわけですね。</p> <p>それで、そういう引きこもりですとか、8050問題だとか、小さい頃からの抱えた問題は、多分、ずっとその後も引きずって大人になる人がいっぱいいて、今それが社会問題になっているので、この切れ目のない支援を考えると、できればワンストップの相談窓口とか、とりあえず相談を受けて、そこから必要な部署につないでもらえるとか、とにかくここにどんな困り事でも御相談くださいみたいな部分を、少し広過ぎるのかもしれませんが、考えて入れていただける</p>

<p>こども未来課</p>	<p>と、8ページに何度も子どもたちの居場所が欲しいという意見が出てきているので、そのあたりの対応策にもつながるのかなと思いました。以上、3点です。</p> <p>1点目の児童養護施設の関係で、短期入所について御説明いたします。</p> <p>子育て短期支援事業は現在もございまして、保護者の疾病であったり、冠婚葬祭等で子どもを一時的に見られない方、そういうときにどこかで宿泊を伴うお預かりができるかということで、現在は一番近くて玖珠町の鷹巣学園、中津市の清浄園、それから2歳未満であれば乳児院になりますが、別府市の栄光園と契約をさせていただいております。そちらを御利用の際には、今のところ、原則、保護者の方、あるいは親戚の方に子どもを連れて行っていただいて、利用していただいているという状況でございます。</p> <p>ただ、やはり保護者の方が、福岡のほうが近くて便利がいいということであれば、そちらの児童養護施設と契約をいたしまして、利用をお願いしているところでございます。</p> <p>2点目の経済的な支援について、現在、市では中学生まで医療費の無償化、それから教育委員会でも教材の助成であったりとか、いろんな支援を行っているところでございます。</p> <p>先ほど委員からございました保育料の無償化、これは今年の10月から、基本的には3歳以上のお子さんについては全て無償、それからゼロ歳から2歳までも低所得者の世帯を対象に無償化になったところでございます。反面、これまで無償であった給食費が有償になるという状況もあります。他市では給食費を市で助成したりするところもあるようでございますけれども、10月に無償化が始まったばかりでもございますので、状況を見ながら取り組んでいく必要があるのかなと考えているところでございます。</p> <p>最後のご質問ですが、子育てをやっていく中でいろんな不安を抱えている皆さんがいらっしゃる、それについてどう対応するのかというお話かと思います。計画の目標の中にもあります妊娠・出産期から切れ目のないという意味なんです、年齢的には18歳ぐらいまでを想定しているところでございます。</p> <p>まず、妊娠・出産期からというところにつきましては、赤ちゃんがお腹にいる段階で、まず保健師の訪問等もありますので、そこで、このお母さんは大丈夫かなというところから始まって、今でもいろんな事業の中で保護者の方、そして子どもたちにお会いをしながら、不安を抱えていることがあるんじゃないか、それについてはどう対応するかということはやってはいるんですけども、それでも残念ながら、</p>
---------------	---

<p>岡 部 委 員</p> <p>こども未来課</p> <p>市 長</p>	<p>そういう不安を抱えているお父さん、お母さんはいらっしゃいますし、児童虐待につながりかねないような案件というのも全くないわけではございません。</p> <p>それに対応していくために、委員からもございましたけれども1つ窓口を作って、まずそこに何か不安なり、ちょっと気になることがあれば、そこにまず行ってみようと、全てそこで解決をするという訳ではございませんけれども、そこにどなたか、いわゆるコンシェルジュ的な方がいらして、そこで、こちらにお話をしてはどうか、こういった施設に行かれてはどうなのかと、私がつなぎましようといった、そういったセンター的な機能を持つ施設が1箇所あったらいいのかなと考えているところでございます。</p> <p>これにつきましては、今回策定いたしました計画の中でも、2ページの1番、全ての子どもの育ちを支える子育て支援拠点の整備、この中で今後やっていこうと思っているところでございます。また、ニーズ調査の中でも出てきた御意見等も含めて、次年度こういったものが実際にあるべきなのか、その機能、それから人員配置等も含めて検討をする時間をいただくようになっているところでございます。</p> <p>放課後児童クラブで、地域によって入れないという相談を受けておりますが、そういうこともやはりあるんですか。</p> <p>放課後児童クラブにつきましては、市内17カ所ありますけれども、その中には、2年生や3年生までしか実態として入れないところがございます。</p> <p>これにつきましては設置基準がございまして、希望のある子は全部入れたいところではあるんですが、やはりクラブ室の問題等もありますので、面積要件、つまり子ども1人当たりにつきこれだけの面積が必要だとか、1つのクラブはおおむね40人程度にしなければと、こういった研修をきちんと受けた支援員を、30人以下でしたら2人、それ以上でしたら3人といった基準があるものですから、なかなかそれを準備することができない部分があって、そういう状況になっております。</p> <p>我々としても、それをそのまま放置しておいていいとは考えておりませんので、来年度以降ですけれども、人数の多いところにつきましては、分割といいますか、2つに分けることで先ほど申し上げたような要件を満たしながら、少しでも多くのお子さんに入っていただくという計画をしているところでございます。</p> <p>そういう対象になっているところが具体的にあるんですか。</p>
---	--

こども未来課	<p>学校規模が大きいところにつきましてはやはり希望が多いので、光岡、咸宜は「ひたっ子」というところでもう一つ新しく作っておりますけれども、それでもやはり面積的にというところがあるものですから、市内では学年を制限しているクラブが3つ程度はあると思います。</p>
市長	<p>それは、施設整備なんかもあるということなんですか。</p>
こども未来課	<p>まず考えられるのは、先ほど申し上げましたように、2つに分けるということで、その要件を満たすという対応を考えているところでございます。</p>
古田委員	<p>病児・病後児保育事業はとても大事だと思うのですが、これはどこかに新設されるのですか。</p> <p>もう一つ、5ページのニーズ調査の結果の中で、就学児童において、習い事の比率がやはり高いですね。共働きの保護者の方も習い事はさせたいんだけど、送り迎えができないという方がとても多いので、放課後児童クラブもしくは放課後子ども教室に居場所を作るというのはすごい大事ですけど、毎日そこで何をするのか、内容の充実というのも必要になると思うんです。そういう何か学力向上とまでは言わないけれど、何か習い事とか学力とか、放課後児童クラブと放課後子ども教室がリンクできないものかなとお母さんたちと話したことはあるんですけど、そこはどんなふうにお考えでしょうか。</p>
こども未来課	<p>まず、病児・病後児保育について御説明いたします。</p> <p>現在、病児保育が中央病院の横に1つございます。そして、病後児保育が丸の内と大山の2カ所がございます。病児保育については、現在、利用が月に10名程度だったと思いますが、希望のある方については対応できていると思います。</p> <p>ただ、病後児保育の利用がなかなか多くないようで、それについては場所というよりも手続的なもので、もう少し簡略化できないかという御希望は時々あるんですけども、やはり病気、特に感染症関係になってくると、病院を通しての手続が必要になってくるものですから、その辺をどうやってうまくやっていくかという課題はあろうかと思っているところでございます。</p> <p>それともう一つ、習い事で、子ども教室、それから放課後児童クラブとの関係かと思えます。これについては、子ども教室と児童クラブの名前は似ているし、やっている時間帯も同じような時間帯なんです</p>

	<p>が、目的が少々違うところがございます。</p> <p>放課後児童クラブというのは、保護者が仕事等をされていて家庭にいない児童を預かる所でありまして、放課後子ども教室というのは、全ての子どもが学習やスポーツ、それから文化活動に取り組むというものでございます。</p> <p>ただ、同じ時間帯に同じ学校の子どもたちが集まるというところがございますので、連携をしてやるべきではないかというところがございます。国からもそういうふうにするべきだというような指示も出ているところがございます。</p> <p>そのため、今現在、放課後対策協議会という、社会教育課が事務局になっていますけれども、この対応を考える場もございますので、連携を具体的にどうやって行くのかという協議を持ちたいと考えているところがございます。</p>
社 会 教 育 課	<p>社会教育課の放課後子ども教室につきましては、夏休みや平日のうち、主に水曜日に行っておりますが、放課後児童クラブにつきましては、年間ほぼ毎日という形になっており、放課後子ども教室については、学習する部分も行っております。</p> <p>放課後児童クラブは学校内の一部に建物を建てたり、体育館の一部など特定の場所を決めたりして保育をし、放課後子ども教室につきましては、主に公民館を中心に実施しておりますが、連携につきましては重要だと考えております。</p> <p>ただ、子どもが児童クラブの場所から公民館まで、隣接している場所でしたら連携を行っている部分もあるんですけれども、公民館に移動する場合の安全や時間の調整などの一体化や連携について、こども未来課と社会教育課で協議して、どう取り組んでいくかということをこれから進めてまいりたいと思っております。</p>
諫 本 委 員	<p>病児・病後児事業で手続上と言われました。本当に病気になったときに、簡略化はできないにしても、とりあえずどう対処するかみたいなことに努めていただければと思っています。利用した保護者はとても助かっているという話は聞きます。</p> <p>それから、資料の見方を教えてください。量の見込みと実績の表のところですが、例えば、25ページに病児・病後児の量の見込みと実績があります。29年から事業を開始したという点もあると思うのですが、例えば29年でいうと、見込みが3,600で実績が13で、令和元年になると、見込みが200で実績が291になっており、これは見方としてどう解釈していいのかを教えてください。</p>

こども未来課	<p>27年度から31年度までの実績等を記載しております。27年度に5年間の第1期計画を立てたときに、量の見込みを27年度であれば、年間3,900名ほどの利用があるであろうと推定をして見込んだところでございますけれども、実際、病児保育等が始まったのが平成30年度からということもありますので、利用が少なかったと。病児は平成30年度からできましたので、それから年間145名ほどの実績になっているところでございます。</p> <p>29年度までは確かに3,000名ほど予定はしていたところでございますが、ちょっと見込みが多過ぎたというところもあり、30年度に計画の見直しを行いまして、年間200名としたところでございます。</p>
諫本委員	<p>例えば、291が500になったところで、受け入れというのは可能だというふうに考えていいんですね。</p>
市長	<p>ほかに何かありませんか。</p> <p>では、次に行きます。(2)のESD教育について、事務局のほうから説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【SDGsについての説明】 【ESD教育についての説明】</p>
市長	<p>この議題につきまして、ご意見ををお願いします。</p>
諫本委員	<p>SDGsに関しては、世界中でやっと理解されてきたなというような状況で、私たちも自分たちの仕事を通じてSDGsを意識しないわけにもいきません。それに関連したことを積極的にやらないと、例えば、仕事でいえば公的な助成金を受けるためには、きちんとこれに則ったやり方を考えていかなければならないという時代にもなっています。個人的にいえば利己主義的なこと、自分がよければいいということではなくて、全て持続可能な社会づくりに自分もかかわっていることを意識して生活する、生きていく、子どもに教育をするのであれば、それを意識した教育ということになると思うんです。先ほどの説明にもありましたが、SDGsという言葉はなくても世の中のためにはこれが必要なんだ、自分だけではなくてみんなに支えられているからだということ意識して、いろんな課題とか事業とかもやってこられたと思うんですね。だから特別に何か、先ほどのカレンダーを見ているとわかりやすい項目を作っていることももちろんありますけれども、今までやってきたものがそれに当てはまるんだという</p>

	<p>ことで関連づけていることのほうが多いと思うし、まず初めは、今やっていることとの関係性を1回理解して、それから、ESDという形の中で、コミュニティ・スクールも作って、わかりやすく説明するためにどういう努力をしたらいいのかということの一つ一つしていきしかないと思います。特別なものがいっぱい出てきたら先生も混乱すると思うんで、今言われたような進め方でいいのかなというふうには思いました。</p> <p>ただ、どちらかというと保護者側のほうに、学力向上、スポーツの技術向上を一番に考えている方たちもたくさんいらっしゃるんで、そういう方の理解と一緒に得ながら、少しずつSDGsの考え方を広めていく必要があるかなと思いました。</p>
教 育 次 長	<p>先ほど御意見いただいた、新しい取組ではなく、新しい考え方になるんですけど、やっている内容は従来からのことでありますが、SDGsやESDというのは、まず教育委員会できっちり方針といいますか、考え方をまとめながら、それを各学校の先生方に知っていただく。先生方は理解していただいているところもあるんですけど、先ほどから申しあげましたように、コミュニティ・スクールがありますので、当然、そこは保護者の方、地域の方にも広く知っていただくというところで、いかに広報して理解していただくかというところを含めて、今後、効果を考えながら対応を進めていきたいと考えております。</p>
奥 平 委 員	<p>13ページの上の四角囲みなんですけれども、概念の形成IからVIまで、すごく前向きな、これからの未来に向けてみんなで頑張っているという子どもの育成とすごく関係のあることだと思うんですけども、それらを解決するために必要な能力や態度がこのようなものですよと、例えば、この能力・態度の育成の一番に、「批判的に考える力」、これはすごくマイナスなイメージがあるんですけども、他人の意見を認めるとか、ディベート的に別の意見を言って自分たちの能力を高めるとか、そういう意味での批判的という表現の仕方ならばいいのですが、例えば、誰かと会い、その子の悪いところを見つけるとか、極端に言うとかそういうことにもなりかねないかなと思ったので。この大事な成長期にいろんな考え方を身につけるのであれば、表現を変えて、もう少し受け入れやすいというか、批判的というのはどうしても拒否するようなイメージにつながるんで、少しここは考えていただきたいかなと思いました。</p>
学 校 教 育 課	<p>子どもたちがこれを見たときに、おそらく委員さんが危惧するの</p>

		<p>は、どちらかというとな否定的な考え方というふうに受け取られたときということだと思いますので、そこについては伝えるときにきちんと説明が必要かなと思います。</p> <p>ただ、この本来の意味は、本当にこれでいいのかなという1回疑問を持ってみようとか、今のあり方が本当に正しいのかというようなことを1回立ち止まって意識してみるというか、そこを出発点にしていこうということですか。本当にこの方法しかないのかということも1回立ち止まって考えるような発想を持とうというようなことであります。</p> <p>関係書の中には、批判的に考える力にはこういう注釈を入れています。「合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協調的、代替的に施行・判断する力」とされているので、今のあり方が本当にいいのか、課題意識をしっかりと持つということだと思います。</p> <p>ただ、やはり慣れない言葉ですので、「批判的」というのはインパクトが確かに強いので、危惧されたことについては丁寧に、学校には伝えていこうと思います。特に、子どもに説明をするときには注意していきたいと思います。</p>
市	長	<p>言葉を誤解すると、入り口で躓いて大変なことになるし、最初のアプローチだから、もう少し上手な言葉を使ってもらえると。</p>
教 育	長	<p>文科省等が使っている、いわゆるグローバルリズムの中で、日本の良さをもっと知る、本質を知ること、日本の特性として礼儀正しいという良さや、外国はいろんな違う国がたくさんあって、違う人がいて、いろんな見方があるんだよということだと思いますが、この「批判的」という言葉が与える影響は、子どもたちには刺激が強過ぎて、考えていかなければいけないかなとは思いますがね。</p>
市	長	<p>何か知恵の見せどころですね。そういうことを理解した人が使った言葉と、理解してもらいたいと思っ言う言葉は違うから、考えられるなら考えてもらいたいですけど。</p>
学 校 教 育 課		<p>私たちにとっては、文科省から出されて、当然のことという意識でいたんですが、確かに、そういった考え方というのは大切ですね。特に、最初に出てくる言葉なので、順番も含めて丁寧にやっていきたいと思います。</p>
岡 部 委 員		<p>新しいことをやるわけじゃなくて、既にやっていることがたくさん</p>

<p>学 校 教 育 課</p>	<p>あるわけで、それを整理しながら、結果的には持続可能な社会を担えるような子どもたちを育てていこうという方向はわかるんですけどね。これは学校現場の先生方にはどれぐらい浸透しているんですか。今から研修体制に入るのか、もう既にある程度研修を行っているのか、この辺どうなんですかね。</p> <p>学校現場一人一人に対しては、まだ周知はできておりません。移行期間が3年間ありましたので、県教委主催の講演会等の集合研修はありましたけれど、これも校内で充実しているかということは今のところありません。教育センターの夏期研修講座でも関連するような講座もやってはいるんですが、E S Dという言葉を表に出しての研修は、できていないのが現状です。</p> <p>この周知について、移行期間で大事なものは、資質・能力ベースです。先ほどのシートの12、この資質・能力育成を目指す、ここに今、重点をおきながら新しい学習指導要領の理解を一番に進めているところです。E S Dの概念を明確に、例えば、校長会等で説明を加えることは、今のところできていないのが現状です。ですから、現場の先生がE S Dと聞いたときに、新しい教育が始まるんじゃないかというようなイメージを持つことを危惧しております。ここはゆっくり周知したほうがいいかなと。コミュニティ・スクールが来年度で全校に導入されるので、ここの関連の中で周知していくほうがあまりギャップなく行けるんじゃないかなと。学校が背負い込むのではなく地域と一緒にあって、こういった概念を作っていこうというようなことがあろうかと思えますし、先ほど委員が言われたように、この4番の「質の高い教育」とはどんなものかということを考えるきっかけにもなると思います。もちろん、学力向上、体力向上、こういったことも大事ですが、本当にこの地域にとって質の高い教育とは何だろうか、そういうところの切り口にもなっていくかなと感じております。</p>
<p>市 長</p>	<p>あまり難しい話ではないですよ。こういうことを明確に意識して取り組みましょうというようなことを明文化したんですが、こういうアイコンにして、最初に入り口であんまり緊張して入ると、間違っ入り方になると思うし、あんまりゆっくりしてまで説明しなければならぬような話でもない。</p> <p>この間、高校生の子どもたちが未来会議で、僕らのS D G sみたいなものをやっけて、理解したり、してなかったりするよねと思っただけ、意外とよくわかっていて、そういった社会が必要なんだよね、社会を構成している一人なんだよねということは何となくわかってるような話があっけて、それくらいでもいいんだけど、結</p>

<p>教 育 長</p>	<p>果的にお願いしたいのは、周りの人が間違っている位置に立たないようにすることだけじゃないかという気がするんだけど。</p> <p>型にはめて答えがこれだという、これまでの教育と違う教育を今からやっていこうということではないので、子どもたちが常に日常生活の中で問題意識を持って、自分の生活の中で小さいところから変えていける場所があればというようなことを目指していると思うんです。</p> <p>学校のほうでは、これまでの取組を少し整理して見える化していくとか、SDGsの中で今やっていることはここに当てはまるとかいうことをしながら、最終的な目標、目的である、固い言葉でいえば、持続可能な社会の担い手を育てるということですけど、もっとやわらかくいえば、子どもが日常の生活の中で、家でも学校でもこれっておかしいな、どうかならないかなと思っていることを、主体的・対話的で深い学びというのがキーワードになっているんですけど、主体的というのは、自分事として捉えるということ。それから対話的というのが、他者との対話もあるんですけど、自分自身との対話ですよ。それから具体的な事実との対話というふうに言われていますよね。困っていることとか。そういう自分事として対話をしながら、深い学びということが今度は行動として変えていこうとか、仲間と一緒に変えていこうとか、そういうことにつながるということですので、これまでの教育の延長線上にもあるし、さらに、ここを磨いていこうというようなところじゃないかなと思うので、やはりじっくりと時間をかけて学校の先生、それから地域の方、保護者、そしてキャリア教育が今、大人先生が成功していると思うので、いろんな関係部署と連携をさせていただいて取り組んでいけたらなと思っているところでございます。そういう長い目で、しかし、素早くというところで見ていただければありがたいと思います。</p>
<p>永 山 委 員</p>	<p>コミュニティ・スクールが入ってきたときに、地域の高齢者の方たちは、コミュニティ・スクールとは何だろうかということで、やっとそれが少しずつ浸透してきたけれども、じゃあ、CSと言われると、CSって何だろうかとわからなくなる。私たちはどうしてもわかった言葉を簡単に使ってしまっても、やはり言葉をどんなふうに丁寧に伝えていくかというのはすごく大事な部分だと思っています、このSDGsとESDがしばらく頭の中でごっちゃになった時期があったんですけど、そのとき、国の方から教えてもらったのが、このESDは、「えーもんを子孫の代まで」と覚えてくださいと。言われてこれを見ると、他人事じゃなく、いいものをずっと未来まで残していくと</p>

	<p>ということが、ストーンと腑に落ちて一遍で覚えられたんですよ。どうしても、特に地域の高齢者の方とかは、カタカナとかアルファベットの文字は難しいので、何かそういう周知するための努力をこちらもたくさんしていくと、コミュニティ・スクールに合わせてこういうことを進めていくときに、高齢者の人にも一遍で覚えてもらえるのではないかなと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>言葉が命なんで、そこは本当に知恵を絞って頑張っていたきたいと思います。</p> <p>それでは、ESDについては、以上で終わりたいと思います。</p> <p>今日の議題も含めて、全体としてほかに何かありますか。</p>
<p>諫本委員</p>	<p>姫島がユネスコスクールの認定を受けてこのESDをやっていると聞いたのですが、もう長いのですか。参考になるのかなと思って。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>姫島はユネスコのエコパークとかいうものにもなっていて、ユネスコスクールにも入っていると思います。大分県では鶴崎中学校が最初にユネスコスクール化してやっているんですが、そういった先進事例は、私どもとしても取り入れて、周知していきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>他にないようであれば、協議事項について終わらせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>以上をもちまして、令和元年度第1回総合教育会議を閉会させていただきます。</p> <p style="text-align: right;">終了時間 午前11時24分</p>